授　業　概　要

（介護福祉学科）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
医療的ケアⅡ	（ 講義・ 演習 ・ 実習 ）	棚橋恭子（実務経験者）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
24 回	48 時間（３単位）	２年・前期	

［授業の目的・ねらい］

「個人の尊厳と自立」「医の倫理」について医療的ケアを行う立場のたつ専門職としての心構えを形成する。人の生命に直接関係する行為であることの意義と自覚について説明できる。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1「喀痰吸引」「経管栄養」を安全に実施するための基礎知識・技術を習得し実践できる。

2　個人の尊厳と自立について理解し、利用者の尊厳を守り、自立を助ける医療的ケアの実践ができる。

3　利用者の自己決定の権利・個人情報の保護、利用者や家族に対する説明と同意の意味を説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数　24

1　高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論①
　・喀痰吸引とは

2　高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論②
　・人工呼吸器と吸引①

3　高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論③
　・人工呼吸器と吸引②

4　高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論④
　・こどもの吸引　喀痰吸引に伴うケア

5　高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑤
　・吸引を受ける利用者への説明、同意、観察項目

6　高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑥
　・急変、事故発生時の対応と事前対策

7　消化器の解剖と働き①

8　高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論①
　・経管栄養とは

9　高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論②
　・経管栄養実施上の留意点

10　高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論③
　・注入する内容に関する知識

11　高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論④
　・経管栄養を受ける利用者・家族の気持ち、説明と同意

12　高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論⑤
　・急変、事故発生時の対応と事前対策

13　高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実践手順①　器具・機材のしくみ・清潔保持

14　高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実践手順②　経管栄養の技術と留意点①

15　高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実践手順③　経管栄養の技術と留意点② 16　高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実践手順④　経管栄養の技術と留意点③ 17　高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実践手順⑤　経管栄養の技術と留意点④ 18　高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実践手順⑥　経管栄養に必要な報告と記録 19　高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順①　器具・機材のしくみ・清潔保持 20　高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実践手順②　吸引の技術と留意点① 21　高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実践手順③　吸引の技術と留意点② 22　高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実践手順④　吸引の技術と留意点③ 23　高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実践手順⑤　吸引の技術と留意点④ 24　高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実践手順⑥　喀痰吸引に必要な報告と記録	
［使用テキスト・参考文献］ 最新介護福祉全書　１３ 「医療的ケア」（メヂカルフレンド社）	プリント配布 ［単位認定の方法及び基準］ ・単位取得には８割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の６割以上の修得が必要

授　業　概　要

（介護福祉学科）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
医療的ケアⅢ	（講義・ 演習 ・ 実習 ）	棚橋恭子（実務経験者）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
25 回	50 時間（3 単位）	2 年・前期	

［授業の目的・ねらい］

「喀痰吸引」「経管栄養」は医行為である。利用者に対して医療提供上の危機管理を踏まえて安全に提供されなければならない。養成校では、基礎知識を学び、安全に1人で実施できる技術を学び実践できる。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1・「喀痰吸引」「経管栄養」を安全に実施するための基礎知識を学び実践できる。
2・シュミレーターを使用し、「喀痰吸引」「経管栄養」の実際の技術を実践できる。
3・「喀痰吸引」「経管栄養」の基本的な技術を1人で実施することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］　コマ数　25

1　「喀痰吸引」口腔内　演習①
2　「喀痰吸引」口腔内　演習②
3　「喀痰吸引」口腔内　演習③
4　「喀痰吸引」口腔内　演習④
5　「喀痰吸引」口腔内　演習⑤
6　「喀痰吸引」鼻腔内　演習①
7　「喀痰吸引」鼻腔内　演習②
8　「喀痰吸引」鼻腔内　演習③
9　「喀痰吸引」鼻腔内　演習④
10　「喀痰吸引」鼻腔内　演習⑤
11　「喀痰吸引」気管カニューレ内部　演習①
12　「喀痰吸引」気管カニューレ内部　演習②
13　「喀痰吸引」気管カニューレ内部　演習③
14　「喀痰吸引」気管カニューレ内部　演習④
15　「喀痰吸引」気管カニューレ内部　演習⑤
16　「経管栄養」胃ろうによる経管栄養　演習①
17　「経管栄養」胃ろうによる経管栄養　演習②
18　「経管栄養」胃ろうによる経管栄養　演習③
19　「経管栄養」胃ろうによる経管栄養　演習④
20　「経管栄養」胃ろうによる経管栄養　演習⑤
21　「経管栄養」経鼻経管栄養　演習①
22　「経管栄養」経鼻経管栄養　演習②
23　「経管栄養」経鼻経管栄養　演習③
24　「経管栄養」経鼻経管栄養　演習④
25　「経管栄養」経鼻経管栄養　演習⑤

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
・最新介護福祉全書 13「医療的ケア」メヂカルフレンド社	・単位取得には8割以上の出席が必要

	・実技試験を課し、到達目標の６割以上の修得が必要

授　業　概　要

（介護福祉科）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅱ―１	（講義・ 演習 ・ 実習 ）	伊東　美子（実務経験者）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２単位）	２年・前期	必修

［授業の目的・ねらい］

ケアマネジメントや職業倫理を学ぶことにより、それを実践の場でどう活かすべきかを考える。それをもとに安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実践を目指す。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１．介護サービスの特性や提供の場を知る。

２．介護福祉士の専門性と社会的役割、専門職者としての倫理綱領がわかる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数　　15 コマ

1. 介護問題の背景と介護福祉士制度
2. 求められる介護福祉士像
3. 社会福祉士及び介護福祉士法
4. 社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定
5. 専門職能団体がもつ役割
6. 専門職能団体としての日本介護福祉士会
7. 介護実践における倫理
8. 日本介護福祉士会倫理綱領
9. 介護サービスの意味と特性
10. ケアマネジメントの意味としくみ
11. 介護サービスの歴史的変歴と時代背景
12. 介護サービスの種類と提供の場
13. 高齢者に対するサービス提供の場とその特性
14. 障害者に対するサービス提供の場とその特性
15. 介護福祉士の働く場と専門職としてのあり方、介護過程とは何か（意義・目的）

［使用テキスト・参考文献］

・新・介護福祉士養成講座４介護の基本Ⅱ（中央法規出版）

・プリント配布

［単位認定の方法及び基準］

・単位取得には８割以上の出席が必要

・筆記試験を課し、到達目標の６割以上の修得が必要

授　業　概　要

（介護福祉科）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅱ―１	（講義・演習・実習）	伊東　美子（実務経験者）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	30時間（2単位）	2年・前期	必修

［授業の目的・ねらい］

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開する力を養う。また、そのために必要な観察力や洞察力を身に付けることができるように授業展開を行う。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

①生活支援アセスメントを用いたアセスメントを実施することができる。

②実習中の対象者の事例から、個別援助計画を立案することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数　　１５コマ

1. ２年生の実習Ⅱで行う介護過程について
2. 生活支援アセスメント表の書き方の復習①
3. 生活支援アセスメント表の書き方の復習②
4. 生活支援アセスメント表の書き方の復習③
5. 事例を使ったアセスメントの作成①
6. 事例を使ったアセスメントの作成②
7. 事例を使ったアセスメントの作成③
8. 個別援助計画の立案①
9. 個別援助計画の立案②
10. 個別援助計画の立案③
11. 個別援助計画の立案④
12. 実習前準備①
13. 実習前準備②
14. 実習前準備③
15. まとめ

［使用テキスト・参考文献］

・新介護福祉士養成講座９介護過程（中央法規出版）

・介護実習要綱

［単位認定の方法及び基準］

・単位取得には８割以上の出席が必要

・筆記試験を課し、到達目標の６割以上の修得が必要

授　業　概　要

（介護福祉科）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅰ-3	（ 実習 ）	福田康之・速水貴昭 棚橋恭子・伊東美子 （全員　実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１日８時間×３日	24 時間（2 単位）	２学年・前期	必修

［授業の目的・ねらい］

さまざまな生活の場における利用者個々の生活リズムや個性を理解したうえで、ケアの個別性について理解し、利用者・家族とのコミュニケーションを実践し、生活支援技術の確認を行い、他の専門職等との協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士としての役割について理解する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

①様々な生活の場においての個別ケアを理解することができる。

②両者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解することができる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

実習Ⅰ－３（３日間）･････２年生前期

目　的：利用者のニーズに応じたサービス提供のあり方を学び、介護の社会的役割を理解する。

１．訪問介護事業所

目　標：①訪問介護実習施設における事業所の組織、運営の方法と意義を学ぶ。

②訪問介護の対象となる利用者について理解する。

③同行訪問に必要な基本的態度・技術を学ぶ。

④利用者の介護を担っている家族への援助・生活支援の方法について知る。

⑤ホームヘルパーの役割を知る。

⑥保健・医療・福祉各関係職員との連携の方法を知る。

⑤介護保険における介護サービス計画を知る。

実習方法・同行訪問による見学実習とする。

・同行訪問前に利用者に関する注意事項を確認する。

・同行訪問を通して、利用者・家族に対する接し方や援助方法について指導を受ける。

２．小規模多機能型居宅介護

目標：　①実習施設の概要について理解する。

②小規模多機能型居宅介護のサービス内容と利用者について理解する。

③送迎、同行訪問に必要な基本的態度・技術を学ぶ。

④利用者への生活支援の方法について学ぶ。

⑤利用者の介護を担う家族への支援の方法について学ぶ。

⑥小規模多機能型居宅介護における介護福祉士の役割を理解する。

⑦保険・医療・福祉各関係職種との連携の方法について学ぶ。

実習方法・指導者の指導のもとに、施設の業務を通して学習する。

<table>
<tr><td colspan="2">・同行訪問は見学実習とし、生活支援技術は指導のもとで体験する。
３．短期入所（ショートステイ）
①実習施設の概要について理解する。
②ショートステイのサービス内容と利用者について理解する。
③利用者への生活支援の方法について学ぶ。
④利用者の介護を担う家族への支援の方法について学ぶ。
⑤送迎に必要な基本的態度・技術を学ぶ。
⑥ショートステイにおける介護福祉士の役割を理解する。
⑦保険・医療・福祉各関係職種との連携の方法について学ぶ。
実習方法・指導者の指導のもとに、施設の業務を通して学習する。
・同行訪問は見学実習とし、生活支援技術は指導のもとで体験する。</td></tr>
<tr><td>［使用テキスト・参考文献］
新・介護福祉士養成講座
「⑩介護総合演習・介護実習」　中央法規</td><td>［単位認定の方法及び基準］
・必要実習時間の参加が必要
・実習先からの評価を参考に実習態度、介護技術等で評価し、到達目標の６割以上の修得が必要</td></tr>
</table>

授　業　概　要

（介護福祉科）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅱ-2	（ 実習 ）	福田康之・速水貴昭 棚橋恭子・伊東美子 （全員　実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
1日7時間×20日	140時間（3単位）	2学年・前期	必修

［授業の目的・ねらい］

知識と技術を統合し、介護過程を展開して具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を修得する。さまざまな生活の場における個別ケアの理解を深め、介護福祉士の役割について学ぶ。また、介護過程の展開を実践を通して学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

①介護とは何かを理解し、介護を実践する基本的能力を身につける。

②専門職業人として自己をみつめることができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

目　的：障害のレベルに応じて求められる介護技術を習得する。また関連職種との連携のあり方を学び、利用者の生活をよりよくする介護者の役割を理解する。

目　標：①利用者に必要な介護を客観的に把握する。
②心身の障害に起因した生活の支障に対応する介護技術を学ぶ。
③関係職種の役割を理解し、連携のあり方を具体的に学ぶ。
④地域社会における施設の役割を知る。
⑤介護福祉士としての自己の課題を発見する。

実習方法・特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者支援施設、救護施設のいずれかで行う。
・利用者の個別性に応じた生活支援技術を実施する。
・利用者の理解を深めるための情報収集と観察をし、利用者の課題（ニーズ）を考える。
・関連職種の行う援助に関しては見学実習を行う。

［使用テキスト・参考文献］

新・介護福祉士養成講座

「⑩介護総合演習・介護実習」中央法規出版

KOMI記録システム　　現代社

［単位認定の方法及び基準］

・必要実習時間の参加が必要

・実習先からの評価を参考に実習態度、介護技術等で評価し、到達目標の6割以上の修得が必要

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅱ－１	演　習	棚橋　恭子（実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（１単位）	２年・前期	

［授業の目的・ねらい］
介護過程の展開を中心とした知識と技術、多職種協働の視点を整理し、理解できる。

［授業全体の内容の概要］
介護技術の確認、オリエンテーション、実習報告等を計画的に設ける。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
課題を達成するために主体的に行動できる力を身につける。
学びを統合して実際の場面で様々な角度から思考し、根拠に基づいた介護実践ができる能力を養う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1. 今年度の個々の目標設定・実習Ⅱ―２の概要説明
2. 実習Ⅱ―２計画書・誓約書・心構え作成
3. 実習Ⅱ―２計画書・課題の進め方の説明
4. 実習前指導
5. 実習前指導
6. 実習前指導・実習Ⅰ―３計画書・心構え準備
7. 実習記録まとめ
8. 実習記録まとめ
9. 実習記録まとめ
10. 実習Ⅱ―２振り返り
11. 実習Ⅱ―３個人票・計画表・心構え作成
12. 実習Ⅱ―３計画表・心構え作成
13. 実習Ⅰ―３振り返り
14. 実習報告会準備
15. 実習報告会準備

［使用テキスト・参考文献］
・「新・介護福祉士養成講座　第３版
⑩介護総合演習・介護実習」
（中央法規出版）

［単位認定の方法及び基準］
・単位取得には８割以上の出席が必要
・提出課題を課し、授業態度や提出状況により到達目標の６割以上の修得が必要

授　業　概　要

（介護福祉学科）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
自立に向けた介護Ⅱ	講　義・ 演　習	福田康之（実務経験者） 速水貴昭（実務経験者）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２単位）	２年・前期	必　修

［授業の目的・ねらい］

高齢者施設での利用者様との円滑なコミュニケーション・レクリエーションの提供が行えるように、見守ることも含めた適切な生活支援技術を用いて、安全に援助・提供できる技術や知識について習得する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

介護福祉士として現場で活躍できるよう基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、適切に実施できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

【高齢者】　１～１０　福田康之

1. 介護福祉スタッフのマナー基本①
2. 介護福祉スタッフのマナー基本②
3. 介護福祉スタッフのマナー基本③
4. 介護福祉スタッフのマナー基本④
5. 介護福祉スタッフのマナー基本⑤
6. 介護福祉スタッフのマナー基本⑥
7. 介護福祉スタッフのマナー基本⑦
8. 介護福祉スタッフのマナー基本⑧
9. 介護福祉スタッフのマナー基本⑨
10. まとめ

【介護の現場でのレクリエーション】　１１～１５　速水　貴昭

11. レクリエーション準備・練習
12. レクリエーション模擬実施・修正
13. レクリエーション準備・練習
14. 〃
15. 〃

［使用テキスト・参考文献］

【介護の現場でのレクリエーション】

・レクリーション支援の基礎

日本レリエーション協会

・プリント配布

［単位認定の方法及び基準］

・単位取得には８割以上の出席が必要

・筆記試験と実技試験を課し、到達目標の６割以上の修得が必要

授　業　概　要

（介護福祉科）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
社会と制度の理解Ⅱ	（講義・ 演習 ・ 実習 ）	安藤　清彦（実務経験者）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30 時間（2 単位）	2 年・前期	必　修

［授業の目的・ねらい］

１　「障害者の制度」では、制度の歴史と変遷、しくみについて理解する。

２　「介護実践に関連する諸制度」では、介護福祉士として様々な制度を理解する。

上記１．２を目的とし、介護福祉士として利用者に必要な制度やサービスを他の専門職や機関と連携することができるようになることをねらいとする。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１　障害者総合支援法について、制度の解説にとどまらず、その背景や理念が説明できる。

２　介護を実践していくうえで必要な様々な諸制度がわかる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数　15

１　障害者の自立

２　障害者自立支援制度創設の目的と動向

３　障害者頃津支援制度のしくみ

４　障害者自立支援制度にかかわる組織とその役割

５　障害者福祉施策のゆくえ

６　人々の権利を擁護する諸制度①（日常生活自立支援事業）

７　人々の権利を擁護する諸制度②（成年後見制度）

８　人々の権利を擁護する諸制度③（苦情解決の制度・第三者評価の制度）

９　人々の権利を擁護する諸制度③（虐待防止の諸制度）

１０　人々の権利を擁護する諸制度④（障害者差別解消法・個人情報保護法）

１１　保健・医療にかかわる法と諸施策①

１２　保健・医療にかかわる法と諸施策②

１３　生活保護法①

１４　生活保護法②

１５　福祉・医療にかかわる諸制度のまとめ・確認

［使用テキスト・参考文献］

・新・介護福祉士養成講座

「②社会と制度の理解」第 6 版

（中央法規出版）

・配布プリント

［単位認定の方法及び基準］

・単位取得には８割以上の出席が必要

・筆記試験を課し、到達目標の６割以上の修得が必要

授　業　概　要

（介護福祉科）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅲ-1	（講義・ 演習 ・ 実習 ）	元井信明（実務経験者） 鈴木洋子（実務経験者）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30 時間（2 単位）	2 年・前期	必　修

［授業の目的・ねらい］

利用者の障害に応じて、それぞれの障害の理解と生活を支えるための基本的介護技術を習得するための学習とする。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１．様々な障害に応じた生活支援がわかる。

２．介護福祉士として利用者の潜在能力をどうしたら引きだすことができるのか考え、実践することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数　15

【障害に応じた生活支援技術】　　１～１０　元井　信明

１　視覚障害に応じた介護
２　重複障害（盲ろう）に応じた介護
３　運動機能障害に応じた介護①
４　運動機能障害に応じた介護②
５　内部障害（心臓機能障害）に応じた介護
６　内部障害（腎機能障害）に応じた介護
７　内部障害（呼吸器機能障害）に応じた介護
８　内部障害（膀胱・直腸機能障害）に応じた介護
９　内部障害（肝臓機能障害）に応じた介護
１０　重症心身障害に応じた介護

【聴覚・言語障害に応じた介護】　　１１～１５　鈴木　洋子

１１　聴覚障害、言語障害の理解
１２　聴覚障害、言語障害に応じた介護
１３　聴覚障害とコミュニケーション（手話を学ぶ）①
１４　聴覚障害とコミュニケーション（手話を学ぶ）②
１５　聴覚障害とコミュニケーション（手話を学ぶ）③

［使用テキスト・参考文献］

・「新・介護福祉士養成講座⑧
生活支援技術Ⅲ」
（中央法規出版）

［単位認定の方法及び基準］

・単位取得には８割以上の出席が必要
・筆記試験を課し、到達目標の６割以上の修得が必要

授　業　概　要

（介護福祉科）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅳ	（ 講義・演習 ・ 実習 ）	五十嵐吉夫（実務経験者） 吉村寿子（実務経験者） 速水貴昭（実務経験者）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（２単位）	２年・前期	必修科目

［授業の目的・ねらい］

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

介護福祉士として実務につくための基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、それらを統合して適切に実施できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

【利用者の状態に応じた食事の理解と選択】　１～１０　五十嵐　吉夫

1. 調理の基本の理解
2. 調理実習①
3. 介護施設の食事の理解
4. 調理実習②
5. 咀嚼・嚥下対応食の理解
6. 調理実習③
7. 病院食の理解
8. 調理実習④
9. 減塩食の理解
10. 調理実習⑤

【介護の現場でのリハビリテーション】　１１～２０　吉村　寿子

11. リハビリテーションとは
12. リハビリテーションと介護
13. 介護施設で行われているリハビリテーション・機能訓練
14. リハビリ専門職（PT・OT・ST）との関わり
15. 人間の基本動作①
16. 人間の基本動作②
17. 関節可動域訓練とは
18. 関節可動域訓練とは
19. 疾患別基本技術～生活の中でできるリハビリテーション①
20. 疾患別基本技術～生活の中でできるリハビリテーション②

【介護の現場でのレクリエーション】　２１～３０　速水　貴昭

21. レクリエーションを計画する
22. レクリエーションを計画・準備

<table>
<tr><td colspan="2">23. レクリエーション準備・練習
24. レクリエーション模擬実施・修正
25. 施設職員との調整・相談
26. 〃
27. レクリエーション準備・練習
28. 〃
29. デイサービス、ショートステイ、特別養護老人ホームにて実施
30. 〃</td></tr>
<tr><td>［使用テキスト・参考文献］
【介護の現場でのリハビリテーション】
・見てわかるシリーズ６　実践リハビリ介護学、QOL サービス
【介護の現場でのレクリエーション】
・レクリーション支援の基礎
日本レリエーション協会
・プリント配布</td><td>［単位認定の方法及び基準］
・単位取得には８割以上の出席が必要
・筆記試験と実技試験を課し、到達目標の６割以上の修得が必要</td></tr>
</table>

授　業　概　要

（介護福祉学科）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
発達と老化の理解　Ⅰ	（講義・ 演習 ・ 実習 ）	伊東　美子（実務経験者）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	30 時間（2 単位）	２年・前期	

［授業の目的・ねらい］

生まれてから死ぬまでの成長・発達する過程を通して人を理解し、老年期における発達課題や高齢者に多い症状、疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体的、精神的、社会的側面からとらえ、老化に伴う変化の特徴とその対応へについて必要な知識を学ぶ説明できる。

［授業終了時の達成課題（到達目標)］

１・人間の発達に関する心理学の基礎知識を学び理解できる。

２・人が生まれてから死に至るまでの発達段階における特徴、発達課題、生涯発達の考え方が説明できる。

３・老化に伴う心身の機能の変化や特徴を理解し、高齢者の日常生活にどのような影響を及ぼすか説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数　15

1　人間の成長と発達の基礎知識
- 1　成長・発達の考え方
- 2　成長・発達の原則
- 3　成長・発達に影響する要因
- 4　演習

2　人間の発達段階と発達課題
- 5　発達理論
- 6　発達段階と発達課題
- 7　身体的機能の成長と発達
- 8　心理的機能の発達
- 9　社会的機能の発達

3　老年期の特徴と発達課題
- 10　老年期の定義
- 11　老化とは
- 12　老年期の発達課題
- 13　老年期をめぐる今日的課題
- 14　老年期をめぐる今日的課題
- 15　老年期をめぐる今日的課題

［使用テキスト・参考文献］

・介護福祉士養成講座

「12　発達と老化の理解」（中央法規出版）

［単位認定の方法及び基準］

・単位取得には８割以上の出席が必要

・筆記試験を課し、到達目標の６割以上の修得が必要